



桑の緑

小坂小学校 学校便り
令和3年11月26日
文責：校長 江上 知男



タブレット活用(2年)

学習活動で見える子どもの成長

2学期のコロナが落ち着く状況に合わせて、本校では「御船中校区研究会」「町人権教育研究会」など他校の教師に授業を公開したり、校内でお互いの授業を公開し合ったりという取組を実施しました。先週から今週にかけても、2年生国語(藤瀬先生)、5年生理科(山下先生)、5年生特別活動(角田先生)の授業が公開されました。

2年生の授業ではタブレットを活用していました。2年生がタブレットを使いこなす姿を見て、ビックリしました。しかも、そのことが文章の読み方や順序性に気付く力を高めることにつながっていました。

5年生・理科では、実験結果についてグループ内で意見を交換したり、全体の場で意見を発表したり対立させたりと、自分の考えを積極的に説明しようとする子どもたちの姿が見られました。さらに、5年生・特別活動では、2年生を楽しませること・仲良くなることを目的として学級会を開きましたが、自分の考えや「こうすればもっと良くなる」という意見を積極的に発言してまとめていく姿を見ることができました。

学習活動を通して子どもたちの大きな成長を目の当たりにし、「実り多い2学期」になっていることを実感しています。同時に、子どもたちの力を引き出すために、本校の先生たちが私的時間を削ってでも「たゆまぬ努力」を続け、壁にぶつかっても「決してあきらめずに取り組む姿」を、心から誇りに思います。

児童会が「赤い羽根共同募金」を実施!

11月25日・26日に、児童会が「赤い羽根共同募金」を行いました。児童会は「お金を取り扱うこと」について事前に話し合い、各学年の学級通信で保護者に公表してもらいました。

当日は、児童玄関前に長い列ができていました。お金を募金箱に入れて赤い羽根を手渡されると、躍り上がって喜ぶ子どもの姿がとても印象的で、見ていて嬉しくなりました。



募金の様子

募金について考えることは、「自分以外の人のことを考えること」の入口だと思います。「私たちの周りには、暮らしていくのに助けが必要な人がいること」「みんなが暮らしやすくなるお手伝いをするために募金があること」を学ぶ良い機会だと考えています。

最近、「なるほど」と思ったこと…

先日、あるOB会に出席したところ、2つ上の先輩(法律関係の仕事で、「人の終焉」にたくさん立ち会う人)がこんな興味深い話をされました。

- 先輩:なあ江上、「人は生きてきたように死んでいくもの」だぞ。意味が分かるか?。「周りに感謝をして生きてきた人は、最後まで周りに感謝をして亡くられるし、不平ばかり言って生きてきた人は、最後まで周りに不平ばかり言って亡くなっていく」ということだよ。
- 江上:なるほど、じゃあ何事にも「感謝の気持ち」を忘れずに生きていく必要がありますね。
- 先輩:そうだけど「感謝の気持ち」を持つことは簡単じゃない。いろんな「困難」を経験することで、人は「生きていること」を感謝できるようになる。江上も「人の親」だろう。子どもの「困難」を簡単に取り上げとらんか。「苦勞は買ってでもさせる」とは、本当のことだと思うぞ。

話を聞いて、3人の子の親父である私は「子育ての反省することしきり」でした。私は先のことを考えず、「今のこと」「自分の都合」を優先して関わるが多かった気がします。「うちの子は、周りへの感謝の気持ちが育っているのかなあ」と思いつつ、「食べた茶碗くらい自分で洗え!」と怒鳴っている私です(涙)。